
痴漢

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

痴漢

【Nコード】

N9417H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

私は電車の中で痴漢に遭遇した。

む？

何だ、この感触は？

気のせいではない。

明らかに触られている。いや、弄られている。

満員電車で、皆が身動き取れないのをいい事に、やりたい放題という訳か。

何て品性下劣な男だ。

絶対に許さない。

私が降りる時か、こいつが降りる時に首根っこつつ捕まえて、警察に突き出してやる！

でも、振り返る事すら出来ないの、奴の顔を見る事が出来ない。

あ、駅だ。

少しだけ人が動いた。これで奴の顔が見られる。

私は身体を捻るようにして後ろを見た。

真後ろにいたのは、中年のサラリーマン。

でも両手は吊り革。

私に触ってはいない。

他の奴？

もう少し身体を動かしてみる。

しかし、皆両手が見えている。

犯人がいない？

そんなバカな？

私のお尻は、今も触られたままなのだ。

こうなったら、この手を掴み、引き摺り下ろすしかない。

意を決して空いている左手で、まだ人のお尻を触り続けている手を抓った。

「いて！」

声がした。

私は、その手を逃がさないように掴んだ。

「この痴漢、許さないわよ！」

私は次の駅に到着と同時に、犯人の手を掴んだまま、ホームに出た。

「さあ、警察呼ぶから、覚悟しなさい」

私は犯人を見るために振り返った。

そして腰を抜かした。

私のお尻を触っていたのは、「右手首」だけだったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9417h/>

痴漢

2010年10月31日04時39分発行